

(様式第9)

琉大医総第282号
平成25年10月2日

九州厚生局長 殿

琉球大学医学部附属病院長
村山 貞夫

琉球大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成24年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

| | |
|--------|-----|
| 研修医の人数 | 43人 |
|--------|-----|

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

| 職種 | 常勤 | 非常勤 | 合計 | 職種 | 員数 | 職種 | 員数 |
|-------|------|-------|--------|---------|-----|-----------|------|
| 医師 | 377人 | 4.6人 | 381.6人 | 看護補助者 | 74人 | 診療エックス線技師 | 人 |
| 歯科医師 | 19人 | 0.4人 | 19.4人 | 理学療法士 | 8人 | 臨床検査技師 | 35人 |
| 薬剤師 | 30人 | 人 | 30.0人 | 作業療法士 | 4人 | | |
| 保健師 | 人 | 人 | 人 | 視能訓練士 | 8人 | その他 | 人 |
| 助産師 | 22人 | 人 | 22.0人 | 義肢装具士 | 人 | | |
| 看護師 | 577人 | 20.5人 | 597.5人 | 臨床工学技士 | 12人 | 医療社会事業従事者 | 人 |
| 准看護師 | 人 | 0.8人 | 0.8人 | 栄養士 | 人 | その他の技術員 | 25人 |
| 歯科衛生士 | 2人 | 人 | 2.0人 | 歯科技工士 | 人 | 事務職員 | 188人 |
| 管理栄養士 | 7人 | 人 | 7.0人 | 診療放射線技師 | 24人 | その他の職員 | 33人 |

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

| | 歯科等以外 | 歯科等 | 合計 |
|--------------|----------|-------|----------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 470.8人 | 15.5人 | 486.3人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 1,040.8人 | 71.5人 | 1,112.3人 |
| 1日当たり平均調剤数 | 708.6剤 | | |

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。





R

Handwritten scribble or mark at the bottom left corner.

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|--|-------|
| 骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体室素処理骨移植 | 4人 |
| 末梢血幹細胞による血管再生治療 | 1人 |
| 前眼部三次元画像解析 | 78人 |
| 急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定 | 0人 |
| 硬膜外自家血注入療法 | 1人 |
| 光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助 | 0人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|-------------------|-------|
| 胸部悪性腫瘍に対するラジオ焼灼療法 | 0人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

| | | | |
|---|-----------------------------|-------|-----|
| 医療技術名 | アミノレブリン酸による術中蛍光診断 | 取扱患者数 | 47人 |
| 当該医療技術の概要 アミノレブリン酸は、悪性神経膠腫や髄膜腫では、細胞内に取り込まれた後、ミトコンドリア内にてプロトポルフィリンIXへと代謝され、腫瘍細胞内に選択的に蓄積する。プロトポルフィリンIXは、光高感受性物質であり、青色光線(400-410nm)により励起されると、赤色発光するため、術中に腫瘍と正常組織との識別が可能となり、摘出率の向上及び予後の改善に重要な役割を果たしている。 | | | |
| 医療技術名 | 画像誘導装置を用いた脳腫瘍摘出術 | 取扱患者数 | 75人 |
| 当該医療技術の概要 脳腫瘍摘出術中にニューロナビゲーションシステムを用いて頭蓋内病変の位置と周囲神経線維、脳神経、主要血管の位置を同定し、より安全で確実な病変の摘出と神経機能温存を可能にする技術である。 | | | |
| 医療技術名 | 術中ICG蛍光血管撮影 | 取扱患者数 | 46人 |
| 当該医療技術の概要 術中にインドシアングリーン(ICG)を静脈内投与し、赤外線による蛍光により頭蓋内血管を同定する。脳腫瘍における栄養血管の評価、周囲静脈系の評価に有効である。また、血行再建術やクリッピング術において、処置の精度、血管温存の確認などの評価が術中に可能であり、安全で質の高い手術を行うための技術である。 | | | |
| 医療技術名 | 術中神経モニタリング | 取扱患者数 | 53人 |
| 当該医療技術の概要 術中に誘発電位や筋電図を記録することにより、神経機能を直接評価しつつ手術を行うことが可能となる技術である。運動誘発電位、脳神経モニタリング、聴性脳幹反応、体性感覚誘発電位、視覚誘発電位があり神経機能温存のために有用である。 | | | |
| 医療技術名 | ロボットスーツを用いたニューロリハビリテーション | 取扱患者数 | 11人 |
| 当該医療技術の概要 身体に装着することによって、身体機能を補助・増幅・拡張することができるサイボーグ型ロボットHAL(Hybrid Assistive Limb)を使用したリハビリテーションである。脳腫瘍や脳卒中による運動機能障害を有する患者の急性期リハビリテーションに有用である。 | | | |
| 医療技術名 | 経頭蓋直流電気刺激法を用いたニューロリハビリテーション | 取扱患者数 | 23人 |
| 当該医療技術の概要 tDCS(経頭蓋直流電気刺激法)は、障害脳の頭皮上に陽極電極、反対側に陰極電極を設置して、1mAの直流電流を用いて10-30分間刺激を行う電気刺激法であり、障害脳の興奮性シグナルを増加させ、健側脳の過活動を抑制することで、大脳半球間の不均衡を修正し、脳の可塑的变化を促進すると考えられている装置である。脳腫瘍、脳卒中、頭部外傷による機能障害を有する患者の急性期リハビリテーションに有用である。 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

| 疾患名 | 取扱患者数 | 疾患名 | 取扱患者数 |
|--|-------|---|-------|
| ・ベーチェット病 | 21人 | ・膿疱性乾癬 | 9人 |
| ・多発性硬化症 | 6人 | ・広範脊柱管狭窄症 | 11人 |
| ・重症筋無力症 | 25人 | ・原発性胆汁性肝硬変 | 35人 |
| ・全身性エリテマトーデス | 118人 | ・重症急性膵炎 | 0人 |
| ・スモン | 0人 | ・特発性大腿骨頭壊死症 | 53人 |
| ・再生不良性貧血 | 11人 | ・混合性結合組織病 | 16人 |
| ・サルコイドーシス | 45人 | ・原発性免疫不全症候群 | 2人 |
| ・筋萎縮性側索硬化症 | 4人 | ・特発性間質性肺炎 | 11人 |
| ・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎 | 129人 | ・網膜色素変性症 | 34人 |
| ・特発性血小板減少性紫斑病 | 19人 | ・プリオン病 | 1人 |
| ・結節性動脈周囲炎 | 13人 | ・肺動脈性肺高血圧症 | 3人 |
| ・潰瘍性大腸炎 | 161人 | ・神経線維腫症 | 8人 |
| ・大動脈炎症候群 | 18人 | ・亜急性硬化性全脳炎 | 6人 |
| ・ピュルガー病 | 36人 | ・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群 | 8人 |
| ・天疱瘡 | 40人 | ・慢性血栓塞栓性肺高血圧症 | 5人 |
| ・脊髄小脳変性症 | 5人 | ・ライソゾーム病 | 6人 |
| ・クローン病 | 141人 | ・副腎白質ジストロフィー | 1人 |
| ・難治性の肝炎のうち劇症肝炎 | 3人 | ・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | 0人 |
| ・悪性関節リウマチ | 1人 | ・脊髄性筋萎縮症 | 1人 |
| ・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病) | 40人 | ・球脊髄性筋萎縮症 | 0人 |
| ・アミロイドーシス | 4人 | ・慢性炎症性脱髄性多発神経炎 | 1人 |
| ・後縦靭帯骨化症 | 30人 | ・肥大型心筋症 | 2人 |
| ・ハンチントン病 | 1人 | ・拘束型心筋症 | 0人 |
| ・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症) | 8人 | ・ミトコンドリア病 | 4人 |
| ・ウェゲナー肉芽腫症 | 9人 | ・リンパ脈管筋腫症(LAM) | 2人 |
| ・特発性拡張型(うっ血型)心筋症 | 28人 | ・重症多形滲出性紅斑(急性期) | 0人 |
| ・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシヤイ・ドレーガー症候群) | 9人 | ・黄色靭帯骨化症 | 0人 |
| ・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型) | 0人 | ・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症) | 36人 |

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

| 施設基準等の種類 | 施設基準等の種類 |
|-----------|-------------------|
| ・インプラント義歯 | ・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査 |
| ・超音波骨折治療法 | ・先天性難聴の遺伝子診断 |
| ・腹腔鏡下肝切除術 | ・眼底三次元画像解析 |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

| | |
|-------------------------------------|--|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況 | 1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | ・病理部症例検討会 18回/年 ・検査部症例検討会 2～3回/週 |
| 部 検 の 状 況 | 部検症例数 28 例 / 部検率 14.40% |



(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|--------|----------|-----------|-----------------------------|
| 血管平滑筋細胞の動脈硬化性形質転換におけるトリグリセリド代謝の意義 | 松本 裕文 | 病理部 | 1,430,000 | 補 日本学術振興会 科研費 |
| 糖尿病合併冠動脈疾患患者における、心拍低下療法の妥当性を問う観察研究 | 井上 卓 | 専門研修センター | 390,000 | 補 日本学術振興会 科研費 |
| 地域(沖縄県浦添)における慢性腎臓病患者診療の実態:自然歴、治療経過に関する研究 | 井関 邦敏 | 血液浄化療法部 | 650,000 | 補 日本学術振興会 科研費 |
| 若齢期の人工甘味料曝露によるレプチン抵抗性獲得機構の解明 | 屋比久 浩市 | 第二内科 | 910,000 | 補 日本学術振興会 科研費 |
| 脊髄虚血後の痙攣性対麻痺に及ぼす α 2アドレナリン受容体アゴニストの鎮痙作用 | 淵上 竜也 | 集中治療部 | 1,040,000 | 補 日本学術振興会 科研費 |
| ビタミンK高含有沖縄野菜の摂取制限がワルファリンの薬効に与える影響の調査 | 又吉 哲太郎 | 専門研修センター | 650,000 | 補 日本学術振興会 科研費 |
| グラム陽性球菌でのバンコマイシン耐容株の解析と抗菌薬治療レジメの提案 | 仲宗根 勇 | 検査部 | 500,000 | 補 日本学術振興会 科研費 |
| アジア腎生検レジストリーの創設と最適な腎疾患治療を目指すアジア腎疾患コホート研究 | 井関 邦敏 | 血液浄化療法部 | 650,000 | 補 日本学術振興会 科研費 (研究分担者) |
| 尿路上皮癌の新規尿中マーカー80KDa糖蛋白の臨床的意義と生物学的役割 | 木村 太一 | 泌尿器科 | 1,690,000 | 補 日本学術振興会 科研費 |
| 頭頸部癌治療における高濃度酸素療法の可能性とロックス1発現に関する検討 | 真栄田 裕行 | 耳鼻咽喉科 | 650,000 | 補 日本学術振興会 科研費 |
| 一酸化窒素合成酵素完全欠損マウスを用いた大動脈瘤/大動脈解離発症の解明 | 新垣 久美子 | 地域医療部 | 1,430,000 | 補 日本学術振興会 科研費 |
| 硫化水素による神経細胞保護の可能性—初代神経細胞での検討— | 神里 興太 | 麻酔科 | 1,820,000 | 補 日本学術振興会 科研費 |
| 加齢にともなう排尿障害への早期薬物リハビリテーション介入 | 宮里 実 | 泌尿器科 | 2,600,000 | 補 日本学術振興会 科研費 |

| | | | | | |
|---|--------|------------|-----------|---|---------------------------|
| 脳梗塞におけるNO合成酵素系の役割の解明と次世代治療戦略の確立 | 久保田 陽秋 | 麻酔科 | 1,300,000 | 補 | 日本学術振興会 科研費 |
| 頭頸部扁平上皮癌におけるリゾフォスファチジン酸経路:新規非EDG型受容体の意義 | 又吉 宣 | 耳鼻咽喉科 | 2,210,000 | 補 | 日本学術振興会 科研費 |
| 低酸素腫瘍細胞の酸素化直後における放射線治療効果を規定する機序の解明 | 合志 清隆 | 高気圧治療部 | 65,000 | 補 | 日本学術振興会 科研費 (研究分担者) |
| 末梢動脈疾患の包括的テーラーメイドリハビリテーションの確立 | 石田 明夫 | 第三内科 | 13,000 | 補 | 日本学術振興会 科研費 (研究分担者) |
| 末梢動脈疾患の包括的テーラーメイドリハビリテーションの確立 | 伊敷 哲也 | 第三内科 | 13,000 | 補 | 日本学術振興会 科研費 (研究分担者) |
| 末梢動脈疾患の包括的テーラーメイドリハビリテーションの確立 | 岸本 幸明 | リハビリテーション部 | 13,000 | 補 | 日本学術振興会 科研費 (研究分担者) |
| 生殖補助医療:走化性による新規精子選別法を目指したマウス精子による検討 | 安里 こずえ | 周産母子センター | 156,000 | 補 | 日本学術振興会 科研費 (研究分担者) |
| 生殖補助医療:走化性による新規精子選別法を目指したマウス精子による検討 | 平敷 千晶 | 周産母子センター | 156,000 | 補 | 日本学術振興会 科研費 (研究分担者) |
| かかりつけ医/非腎臓専門医と腎臓専門医の協力を促進する慢性腎臓病患者の重症化予防のための診療システムの有用性を検討する研究 | 井関 邦敏 | 血液浄化療法部 | 400,000 | 補 | 厚生労働省 科研費 (研究分担者) |
| 特定健康診査による個人リスク評価に基づく、保健指導と連結した効果的な慢性腎臓病(CKD)地域医療連携システムの制度設計 | 井関 邦敏 | 血液浄化療法部 | 700,000 | 補 | 厚生労働省 科研費 (研究分担者) |
| 原発性高脂血症に関する調査研究 | 太田 孝男 | 小児科 | 1,050,000 | 補 | 厚生労働省 科研費 (研究分担者) |
| 門脈血行異常症に関する調査研究 | 國吉 幸男 | 第二外科 | 400,000 | 補 | 厚生労働省 科研費 (研究分担者) |
| NO口腔癌における選択的頸部郭清術とセンチネルリンパ節ナビゲーション手術の無作為化比較試験 | 鈴木 幹男 | 耳鼻咽喉科 | 600,000 | 補 | 厚生労働省 科研費 (研究分担者) |
| MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究 | 健山 正男 | 第一内科 | 2,000,000 | 補 | 厚生労働省 科研費 (研究分担者) |

| | | | | | |
|--|-------|--------|------------|---|----------------------|
| 国内で流行するHIV遺伝子型および薬剤耐性株の動向把握と治療方法の確立に関する研究 | 健山 正男 | 第一内科 | 2,500,000 | 補 | 厚生労働省 科研費 (研究分担者) |
| がん医療の均てん化に資する放射線治療の推進及び品質管理に係る研究 | 戸板 孝文 | 放射線科 | 1,000,000 | 補 | 厚生労働省 科研費 (研究分担者) |
| がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用 | 戸板 孝文 | 放射線科 | 250,000 | 補 | 厚生労働省 科研費 (研究分担者) |
| 高精度放射線治療システムの実態調査と臨床評価に関する研究 | 戸板 孝文 | 放射線科 | 200,000 | 補 | 厚生労働省 科研費 (研究分担者) |
| HTLV-1感染に関する非ATL非HAM希少疾患の実態把握と病態解明 | 藤田 次郎 | 第一内科 | 1,000,000 | 補 | 厚生労働省 科研費 (研究分担者) |
| 院内がん登録の標準化と普及に関する研究 | 増田 昌人 | がんセンター | 400,000 | 補 | 厚生労働省 科研費 (研究分担者) |
| 地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究 | 増田 昌人 | がんセンター | 200,000 | 補 | 厚生労働省 科研費 (研究分担者) |
| 新しい新生児代謝スクリーニング時代に適応した先天代謝異常性の診断基準作成と治療ガイドラインの作成および新たな薬剤開発に向けた調査研究 | 太田 孝男 | 小児科 | 1,200,000 | 補 | 厚生労働省 科研費 (研究分担者) |
| 卵巣明細胞腺癌に対するテムシロリムスを含む化学療法の有効性および安全性に関する研究 | 青木 陽一 | 産婦人科 | 1,000,000 | 補 | 厚生労働省 科研費 |
| 現場の実状を踏まえた我が国のがん対策のあり方に関する研究 | 増田 昌人 | がんセンター | 500,000 | 委 | 独立行政法人 国立がん研究センター |
| がん医療連携体制推進事業 (地域統括相談支援センター事業) | 増田 昌人 | がんセンター | 11,000,000 | 委 | 沖縄県 |
| 沖縄県エイズ治療拠点病院研修委託 | 藤田 次郎 | 第一内科 | 690,000 | 委 | 沖縄県 |
| 平成24年度HIV感染者等保健福祉相談事業(エイズ中核拠点病院) | 健山 正男 | 第一内科 | 800,000 | 委 | 公益財団法人エイズ予防財団 |

| | | | | | |
|-----------------------------------|-------|--------|-----------|---|---------------|
| 地域の療養情報おきなわがんサポートハンドブック作成事業 | 増田 昌人 | がんセンター | 3,100,000 | 委 | 沖縄県 |
| 実地研修(HIV感染者・エイズ患者の住宅医療・介護の環境整備事業) | 健山 正男 | 第一内科 | 80,000 | 委 | 公益財団法人エイズ予防財団 |

計 42

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|--|---|-------------|---------|
| Japanese Journal of Neurosurgery | 「粒子線治療の脳腫瘍への臨床応用と将来展望」 | 石内 勝吾 | 脳神経外科 |
| 日本血液学会誌 | A rare case of HIV-associated Castleman Disease with primary CNS lymphoma treated with rituximab. | Nishi Y | 第二内科 |
| Internal Medicine | Acquired immune-deficiency syndrome with focal onset of Mycobacterium avium infection displaying a histological/genetic pattern of disseminated mycobacteria. | Hibiya K | 第一内科 |
| Academic radiology | ACTIVE Study Group. Lung Image Quality with 320-row Wide-volume CT Scans: The Effect of Prospective ECG-gating and Comparisons with 64-row Helical CT Scans. | Yamashiro T | 放射線科 |
| Journal of Obstetrics and Gynaecology Research | Acute congestive heart failure due to ruptured mitral chordae tendineae in late pregnancy. | Ohishi S | 産婦人科 |
| European journal of preventive cardiology | Age- and sex-related effects on ankle-brachial index in a screened cohort of Japanese: the Okinawa Peripheral Arterial Disease Study (OPADS). | Ishida A | 第三内科 |
| Life Sciences | An alpha1-adrenoceptor blockers improve urine storage function in the spinal cord in spinal cord injured rats. | Miyazato M | 泌尿器科 |
| Hypertension research | An association between uric acid levels and renal arteriopathy in chronic kidney disease: a biopsy-based study. | Kohagura K | 第三内科 |
| Journal of clinical microbiology | Association between Helicobacter pylori virulence factors and gastroduodenal diseases in Okinawa, Japan. | Matsunari O | 光学医療診療部 |
| 日本糖尿病学会誌 | CGMを用いた食後高血糖に対する薬物治療の評価 | 仲村 英昭 | 第二内科 |
| International journal of clinical oncology | Cigarette smoke stimulates VEGF-C expression in cervical intraepithelial neoplasia (CIN) 1 and 2 lesions. | Inamine M | 産婦人科 |

| | | | |
|---|---|-------------|----------|
| Journal of infection and chemotherapy | Clinical and bacteriological efficacies of sitafloxacin against community-acquired pneumonia caused by <i>Streptococcus pneumoniae</i> : nested cohort within a multicenter clinical trial. | Fujita J | 第一内科 |
| Journal of infection and chemotherapy | Clinical dose findings of sitafloxacin treatment: pharmacokinetic-pharmacodynamic analysis of two clinical trial results for community-acquired respiratory tract infections. | Kohno S | 第一内科 |
| Kekkaku | Clinical features of diabetic patients with pulmonary tuberculosis admitted to a university hospital. | Sunagawa S | 薬剤部 |
| Digestive endoscopy | Clinical symptoms of FSSG in gastroesophageal reflux disease are critical for PPI treatment: Japanese multi-centers with 185 patients. | Matsunari O | 光学医療診療部 |
| Anticancer research | Concurrent chemoradiotherapy with paclitaxel and cisplatin for adenocarcinoma of the cervix. | Nagai Y | 産婦人科 |
| Academic radiology | CT Scans of the Chest in Carriers of Human T-cell Lymphotropic Virus Type 1: Presence of Interstitial Pneumonia. | Yamashiro T | 放射線科 |
| The Journal of dermatology | Deep venous thrombosis and pulmonary embolism secondary to co-administration of thalidomide and oral corticosteroid in a patient with leprosy. | Yamaguchi S | 皮膚科 |
| World journal of gastrointestinal endoscopy | Detection of active bleeding from gastric antral vascular ectasia by capsule endoscopy. | Ohira T | 第一内科 |
| World journal of gastroenterology | Diagnosis of intestinal tuberculosis using a monoclonal antibody to <i>Mycobacterium tuberculosis</i> . | Ihama Y | 第一内科 |
| Anticancer research | Diffusion-weighted MRI and PSA Correlations in Patients with Prostate Cancer Treated with Radiation and Hormonal Therapy. | Iraha Y | 放射線科 |
| Japanese journal of infectious diseases | Effect of climatic conditions on epidemic patterns of influenza in Okinawa, Japan, during the pandemic of 2009: surveillance of rapid antigen test results. | Iha Y | 第一内科 |
| Frontiers in bioscience (Elite Ed) | Effects of early endometriosis on IVF-ET outcomes. | Mekaru K | 周産母子センター |

| | | | |
|---|---|------------|---------|
| Cardiology Research and Practice | Eicosapentaenoic Acid (EPA) Supplementation Changes Fatty Acid Composition and Corrects Endothelial Dysfunction in Hyperlipidemic Patients. | Yamakawa K | 第二内科 |
| International Cancer Conference Journal | Endometrial carcinoma with peritoneal keratin granulomas mimicking peritoneal carcinomatosis: a case report and imaging diagnosis. | Ooyama T | 産婦人科 |
| World journal of gastrointestinal endoscopy | Endoscopic and radiographic features of gastrointestinal involvement in vasculitis. | Hokama A | 光学医療診療部 |
| Digestive endoscopy | Endoscopic diagnosis of gastric mucosal activity and inflammation. | Nomura S | 第一内科 |
| Journal of neurosurgery | Enhanced antitumor effect of YM872 and AG1296 combination treatment on human glioblastoma xenograft models. | Watanabe T | 脳神経外科 |
| Biochemical and biophysical research communications | ER-activating ability of breast cancer stromal fibroblasts is regulated independently of alteration of TP53 and PTEN tumor suppressor genes. | Tetsuji S | 泌尿器科学 |
| Japanese Journal of Radiology | Evaluation of hemodynamic changes by use of phase-contrast MRI for patients with interstitial pneumonia, with special focus on blood flow reduction after breath-holding and bronchopulmonary shunt flow. | Tsuchiya N | 放射線科 |
| Internal Medicine | Evaluation of lung volume in patients with community-acquired pneumonia. | Fujita J | 第一内科 |
| Journal of radiation research | External beam boost irradiation for clinically positive pelvic nodes in patients with uterine cervical cancer. | Ariga T | 放射線科 |
| International journal of gynecological cancer | Feasibility and acute toxicity of Concurrent Chemoradiotherapy (CCRT) with high-dose rate intracavitary brachytherapy (HDR-ICBT) and 40-mg/m ² weekly cisplatin for Japanese patients with cervical cancer: results of a Multi-Institutional Phase 2 Study (JGOG1066). | Toita T | 放射線科 |
| 泌尿器科紀要 | GC療法後に著明な低ナトリウム血症を呈しRenal salt wasting syndromeが考えられた1例 | 松村英理 | 泌尿器科 |
| International journal of urology | Gene therapy for lower urinary tract dysfunction. | Miyazato M | 泌尿器科 |

| | | | |
|--|--|-------------|------------|
| Internal Medicine | Gravity-dependent opacity in pure influenza viral pneumonia. | Fujita J | 第一内科 |
| Influenza and Other Respiratory Viruses | Hamman-Rich syndrome revisited: how to avoid misdiagnosis. | Fujita J. | 第一内科 |
| Journal of gastroenterology and hepatology | Helicobacter pylori cagA 12-bp insertion can be a marker for duodenal ulcer in Okinawa, Japan. | Matsuo Y | 第一内科 |
| European neurology | High glycated hemoglobin levels and intracranial artery stenosis are predictive factors for early motor worsening events in patients with penetrating artery infarction. | Isa K | 第三内科 |
| Rhinology | Human papillomavirus load and physical status in sinonasal inverted papilloma and squamous cell carcinoma. | Hasegawa M | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| Pharmaceutical research | Hydroxylation of R(+)- and S(-)-omeprazole after racemic dosing are different among the CYP2C19 genotypes. | Shiohira H | 薬剤部 |
| Neurologia medico-chirurgica (Tokyo) | Hyperperfusion syndrome after stent placement for subclavian artery stenosis. | Ito K | 脳神経外科 |
| Journal of infection and chemotherapy | Identification of Legionella pneumophila serogroups and other Legionella species by mip gene sequencing. | Haroon A | 第一内科 |
| Internal and Emergency Medicine | Impending megacolon: small bowel distension as a predictor of toxic megacolon in ulcerative colitis. | Hokama A | 第一内科 |
| Japanese journal of infectious diseases | Imported malaria cases in Okinawa Prefecture, Japan. | Higa F | 第一内科 |
| Helicobacter | Intact long-type dupA as a marker for gastroduodenal diseases in Okinawan subpopulation, Japan. | Takahashi A | 第一内科 |
| Radiological physics and technology | Investigation of thermal and temporal responses of ionization chambers in radiation dosimetry. | Almasri H | 放射線科 |

| | | | |
|---|--|------------|------------|
| Hospital Dentistry & Oral-Maxillofacial Surgery | Küttner腫瘍を疑った腺様嚢胞癌の1例 | 新垣 敬一 | 歯科口腔外科 |
| Internal Medicine | Long-term combination treatment of azithromycin with other macrolides: a new era. | Fujita J | 第一内科 |
| Nuclear medicine and biology | Monoclonal antibody RM2 as a potential ligand for a new immunotracer for prostate cancer imaging. | Saito S | 泌尿器科学 |
| International journal of urology | Neurophysiology and therapeutic receptor targets for stress urinary incontinence. | Miyazato M | 泌尿器科 |
| European Journal of Pharmacology | PDGF α receptor is a mediator for Cisplatin-induced Met expression. | Kina S | 歯科口腔外科 |
| Gynecologic oncology | Phase II study of concurrent chemoradiotherapy with high-dose-rate intracavitary brachytherapy in patients with locally advanced uterine cervical cancer: efficacy and toxicity of a low cumulative radiation dose schedule. | Toita T | 放射線科 |
| Cancer science | Prognostic value of human papillomavirus and squamous cell carcinoma antigen in head and neck squamous cell carcinoma. | Deng Z | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| CNS Drugs | Psychotropic drug-drug interactions involving P-glycoprotein. | Akamine Y | 薬剤部 |
| Internal Medicine | Pulmonary computed tomography findings in 39 cases of Streptococcus pneumoniae pneumonia. | Haroon A | 第一内科 |
| Anticancer research | Radical radiotherapy for superficial esophageal cancer: impact of clinical N stage on survival. | Ariga T | 放射線科 |
| Urology | Role of M2 and M3 Muscarinic Acetylcholine Receptor Subtypes in Activation of Bladder Afferent Pathways in Spinal Cord Injured Rats. | Miyazato M | 泌尿器科 |
| Influenza and Other Respiratory Viruses | Role of neuraminidase inhibitor chemoprophylaxis in controlling nosocomial influenza: an observational study. | Higa F | 第一内科 |

| | | | |
|--|---|------------|------------|
| Internal Medicine | Sagittal MR black blood imaging revealing ACA dissection. | Sakima H | 第三内科 |
| Influenza Other Respi Viruses. | Single-dose inhaled laninamivir: registered in Japan and its potential role in control of influenza epidemics. | Sunagawa S | 薬剤部 |
| American journal of rhinology & allergy | Squamous cell carcinoma antigen production in nasal inverted papilloma. | Suzuki M | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| The Journal of dermatology | Systemic lupus erythematosus complicated with protein-losing enteropathy: A case report and review of the published works. | Awazawa R | 光学医療診療部 |
| European journal of clinical pharmacology | The (R)-omeprazole hydroxylation index reflects CYP2C19 activity in healthy Japanese volunteers. | Yamada S | 薬剤部 |
| Journal of stroke and cerebrovascular diseases | Transoral carotid ultrasonography using a micro convex probe with B-flow imaging for extracranial internal carotid artery dissection. | Sakima H | 第三内科 |
| Journal of stroke and cerebrovascular diseases | Trends in the Incidence of Stroke and Cardiovascular Risk Factors on the Isolated Island of Okinawa: The Miyakojima Study. | Sugama C | 第三内科 |
| Case Reports in Medicine | Tuberculous lymphadenopathy mimicking pancreatic neoplasm. | Hoshino K | 第一内科 |
| Head & Neck | Viral load, physical status, and E6/E7 mRNA expression of human papillomavirus in head and neck squamous cell carcinoma. | Deng Z | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| Hypertension Research | We need more evidence for antihypertensive treatment guided by home blood pressure. | Sakima A | 第三内科 |
| 日本口腔ケア学会雑誌 | 医学部附属病院における口腔ケアの現状と展望 —琉球大学医学部附属病院— | 新崎 章 | 歯科口腔外科 |
| 日病薬誌 | インフルエンザ院内感染対策における予防投与の意義 | 砂川 智子 | 第一内科 |

| | | | |
|---|--|--------|--------|
| 日本口腔ケア学会雑誌 | 沖縄県における口腔ケア普及の取組 | 新崎 章 | 歯科口腔外科 |
| 日本内分泌学会誌 | カテコラミン高値を契機に睡眠時無呼吸症候群と診断した症例 | 仲村 英昭 | 第二内科 |
| Hospital Dentistry & Oral-Maxillofacial Surgery | 口腔癌患者における上部消化管内視鏡検査の有用性に関する臨床的検討 | 仁村 文和 | 歯科口腔外科 |
| 日本小児口腔外科学会 | 口唇裂・口蓋裂患者の顎裂部骨移植における高気圧酸素療法の効果について | 新垣 敬一 | 歯科口腔外科 |
| 日本癌治療学会誌 | 子宮体癌 | 青木 陽一 | 産婦人科 |
| 日本口腔外科学会 | 舌下腺に発生した筋上皮腫の1例 | 仁村 文和 | 歯科口腔外科 |
| 日本内科学会誌 | 多発性骨髄腫合併ALアミロイドーシスの治療経験 | 仲地 佐和子 | 第二内科 |
| 日本内分泌学会誌 | バセドウ病に特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) を合併したAPS3型の1例 | 中山 良朗 | 第二内科 |
| 沖縄医学会雑誌 | 不明熱の原因精査に骨髄生検が有用であったホジキンリンパ腫の一例 | 森近 一穂 | 第二内科 |
| 日本血液学会誌 | 薬物乱用を伴い診断に苦慮した自己瀉血による虚偽性貧血の一例 | 仲地 佐和子 | 第二内科 |
| 西日本泌尿器科 | 印環細胞癌を伴う尿管管癌の2例 | 松村 英理 | 泌尿器科学 |
| 西日本皮膚科 | 海洋危険生物による皮膚障害(I) | 上里 博 | 皮膚科 |

| | | | |
|-----------------------|---|--------|------------|
| 泌尿器科紀要 | 割腹自殺企図による尿管断裂に対して腹腔鏡下尿管尿管吻合術を施行した1例 | 宮里実 | 泌尿器科 |
| Facial Nerve Research | 顔面神経麻痺後遺症に対するボツリヌストキシン局注前後における評価法の一工夫 眼輪筋拘縮率(Cp)と病的共同運動率(Sp)算出の試み | 新垣 香太 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| 気管支学 | 急性呼吸不全に対し持続的陽圧換気療法を併用した2症例 | 宮城 一也 | 第一内科 |
| 沖縄医学会雑誌 | 激しい頭痛と全健忘で発症したPostpartum cerebral angiopathyの一症例 | 知念 行子 | 産婦人科 |
| 結核 | 結核に対するレボフロキサシンの使用実態調査結果 | 重藤 えり子 | 第一内科 |
| 耳鼻咽喉科臨床 | 口蓋扁桃摘出術を行った掌蹠膿疱症患者へのアンケート調査 | 乾 智一 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| 日本甲状腺学会誌 | 甲状腺悪性リンパ腫(Burkitt-like lymphoma)の稀な一例 | 中地 あやこ | 第二内科 |
| 喉頭 | 高音発声時の脳活動 functional MRIを用いた検討 | 喜友名 朝則 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| 西日本皮膚科 | 骨髄異形成症候群に合併した壊疽性膿皮症の1例 | 山城 栄津子 | 皮膚科 |
| 日本内分泌学会誌 | 左副腎にコルチゾール産生腺腫およびアルドステロン産生腺腫を有し、術後にパニック障害の顕著な改善を認めた1例 | 土井 基嗣 | 第二内科 |
| 沖縄産科婦人科学会雑誌 | 子宮体癌術後症例の予後因子, 補助療法の検討 | 宮城 真帆 | 産婦人科 |
| 沖縄産科婦人科学会雑誌 | 子宮頸部多発嚢胞性病変の診断方法と取扱いに関する検討 | 大山 拓真 | 産婦人科 |

| | | | |
|---------------|--|-------|------------|
| 日本内分泌学会誌 | 術後手指関節のこわばりと多発関節痛を来したサブクリニカルクッシング病の一症例 | 植田 玲 | 第二内科 |
| 日本糖尿病学会誌 | 食事摂取中に低血糖発作を認める症例において、持続血糖測定装置 (CGMs) で血糖変動を解析した1例 | 難波 豊隆 | 第二内科 |
| Otology Japan | 人工内耳埋込術を施行したCHARGE症候群の1例 | 赤澤 幸則 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| 日本糖尿病学会誌 | 腎機能障害例におけるアログリプチン使用経験 | 新川 葉子 | 第二内科 |
| 日本内科学会誌 | 睡眠時無呼吸症候群に認められる24時間尿中カテコラミン値の上昇 | 仲村 英昭 | 第二内科 |
| 結核 | 大学病院の結核病棟に入院した糖尿病合併肺結核患者の臨床的検討 | 砂川 智子 | 第一内科 |
| 沖縄医学会雑誌 | 第3世代新規抗がん剤で効果が認められた胸腺上皮性腫瘍の2例 | 古堅 誠 | 第一内科 |
| 耳鼻咽喉科臨床 | 中耳手術におけるレボフロキサシンの術後感染予防効果 | 赤澤 幸則 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| 産婦人科の実際 | 当科で経験した治療的頸管縫縮術例の早産リスクについて | 正本 仁 | 産婦人科 |
| 沖縄産科婦人科学会雑誌 | 当科におけるEXIT 4例の経験 | 金城 忠嗣 | 産婦人科 |
| Urology Today | 排尿障害Update 間質性膀胱炎の遺伝子治療 | 宮里 実 | 泌尿器科 |
| 耳鼻咽喉科臨床 | 鼻副鼻腔内反性乳頭腫の診断と治療 扁平上皮癌抗原とヒト乳頭腫ウイルス感染を中心に | 鈴木 幹男 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |

| | | | |
|-------------|----------------------------------|--------|-------|
| 沖縄産科婦人科学会雑誌 | 卵巣腫瘍の良・悪性鑑別におけるMRI拡散強調画像の有用性 | 仲宗根 忠栄 | 産婦人科 |
| 沖縄産科婦人科学会雑誌 | 絨毛性疾患の治療成績 | 平良 理恵 | 産婦人科 |
| 泌尿器科紀要 | 膀胱尿路上皮癌Micropapillary variantの1例 | 松村 英理 | 泌尿器科学 |

計 110

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

| | |
|---------|--|
| 管理責任者氏名 | 病院長 村山 貞之 |
| 管理担当者氏名 | 総務課長 渡名喜一夫、医療支援課長 上原葉子、 放射線部長 村山貞之、薬剤部長 宇野司、看護部長 下地孝子 |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|------------------|--|----------------------|---|
| 診療に関する諸記録 | 病院日誌 | 総務課 | 各診療日誌、看護記録は院内情報システム上で共有し、一定期間ずつプリントアウトしてファイリングしている。 |
| | 各科診療日誌、看護記録 | 看護部 | |
| | 検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 | 医療支援課 (診療録に貼り付け) | 診療録は入院、外来別に1患者1ファイル方式で中央管理している。 |
| | 手術記録 | 手術部 | X線写真はデジタル化後、放射線部サーバーで保管管理し、出力画像は各診療科保存としている。 |
| | エックス線写真 | 放射線部 | |
| | 処方せん | 薬剤部 | |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 従業者数を明らかにする帳簿 | 総務課 | |
| | 高度の医療の提供の実績 | 医療支援課 | |
| | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 医学部事務部 各診療科 | |
| | 高度の医療の研修の実績 | 総務課 | |
| | 閲覧実績 | 総務課 | |
| | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 医療支援課 | |
| | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 医療支援課 薬剤部 | |
| | 第規一則号第 | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | |
| に掲条の | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 安全管理対策室 | |
| る十 | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 安全管理対策室 | |
| 体一 | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 安全管理対策室 | |
| 制第 | | | |
| の | | | |
| 一 | | | |
| 確 | | | |
| 保 | | | |
| 各 | | | |
| の | | | |
| 号 | | | |
| 状 | | | |
| 及 | | | |

| | | |
|----------------------------------|------------------------------------|---------|
| 況び 第九 条の 二十三 第一 項 | 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | 安全管理対策室 |
| | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 感染対策室 |
| | 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | 安全管理対策室 |
| | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 安全管理対策室 |

| | | 保管場所 | 分類方法 |
|------------------|-------------------------------------|---|----------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第一條の十一第一項各号及び第九條の二十三第一項第一号に掲げる体制の | 院内感染のための指針の策定状況 | 感染対策室 |
| | | 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 感染対策室 |
| | | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 感染対策室 |
| | | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 感染対策室 |
| | | 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | 薬剤部 |
| | | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | ME機器センター |
| | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | ME機器センター | |

| | | |
|-------|---|-----------|
| 確保の状況 | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | ME 機器センター |
| | 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | ME 機器センター |

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。



(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | |
|-------------|-------------|
| 閲覧責任者氏名 | 病院長 村山 貞之 |
| 閲覧担当者氏名 | 総務課長 渡名喜 一夫 |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 管理棟 2階 小会議室 |

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

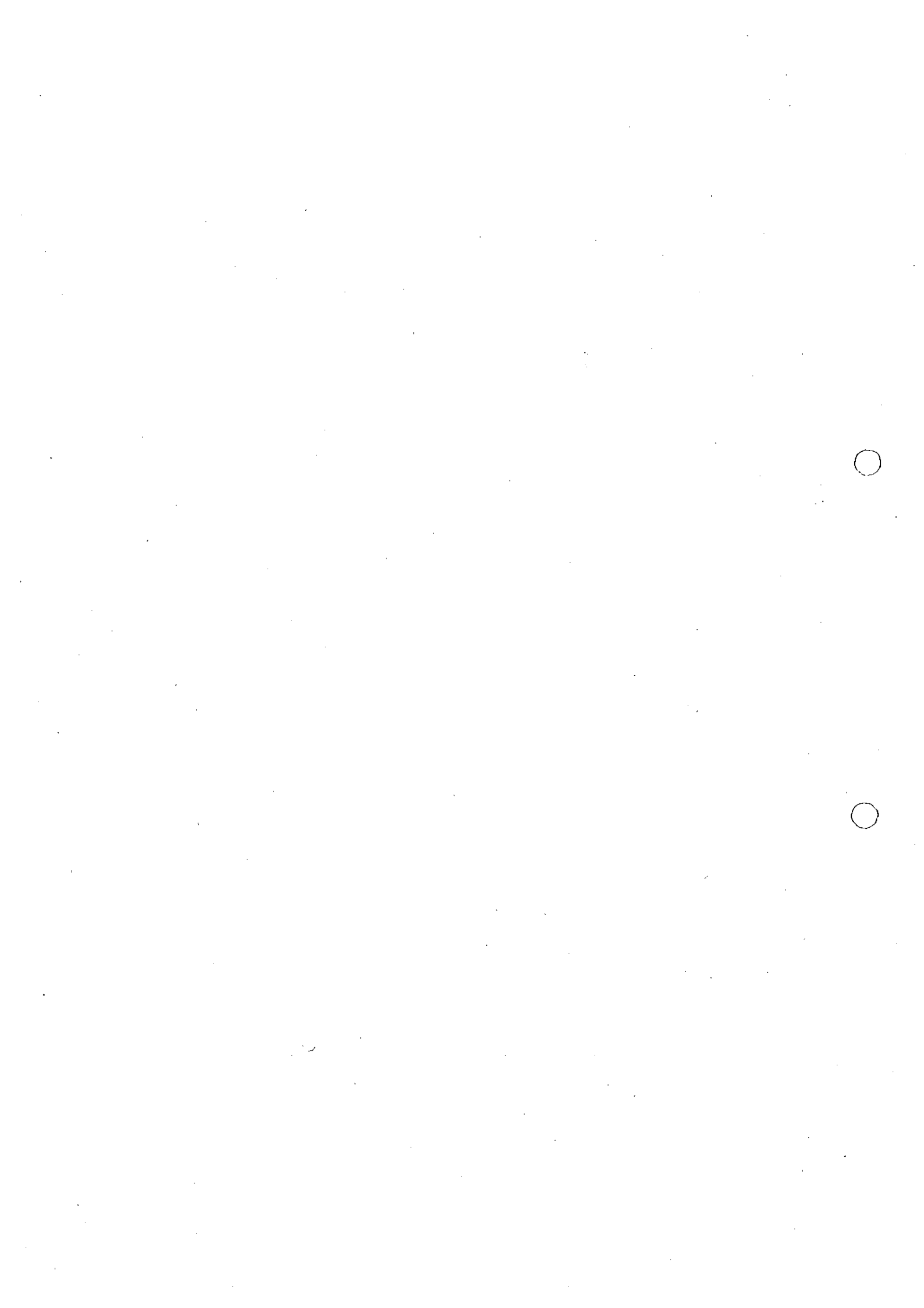
| | | |
|-----------|--------|-------|
| 前年度の総閲覧件数 | 延 | 0 件 |
| 閲覧者別 | 医師 | 延 0 件 |
| | 歯科医師 | 延 0 件 |
| | 国 | 延 0 件 |
| | 地方公共団体 | 延 0 件 |

○紹介患者に対する医療提供の実績

| | | | |
|------|------------------------|----------|----------------------------|
| 紹介率 | 79.2 % | 算定期間 | 平成 24年 4月 1日～平成 25年 3月 31日 |
| 算出根拠 | A: 紹介患者の数 | 9,668 人 | |
| | B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | 8,999 人 | |
| | C: 救急用自動車によって搬入された患者の数 | 668 人 | |
| | D: 初診の患者の数 | 15,419 人 | |

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。



(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

| | |
|---|--------|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 有・無 |
| ・ 指針の主な内容： ① 医療機関における安全管理に関する基本的な考え方 ② 医療にかかる安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本的事項 ③ 医療にかかる安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針 ④ 医療機関内における医療事故報告等の医療にかかる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ⑤ 医療事故発生時の対応に関する基本方針 ⑥ 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ⑦ 患者からの相談への対応に関する基本方針 ⑧ その他医療安全の推進のために必要な基本方針 | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 年 13 回 |
| ・ 活動の主な内容： ① 安全管理の対策及び教育に関すること ② 医療事故の判定に関すること ③ リスクマネジメント・マニュアルに関すること ④ 医療事故が発生したときにおける事実確認・措置及び対策に関すること ⑤ 医療紛争が生じたときの拡大防止に関すること ⑥ 訴訟が提起されたときの対策に関すること ⑦ その他安全管理、医療事故、医事紛争及び訴訟に関する重要事項 | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年 4 回 |
| ・ 研修の主な内容： ◆ 第1回 医療安全職員研修会 日時：平成24年6月6日（水） 内容：暴言・暴力対策講習会「医療機関の対暴力について」 講師：沖縄県警察本部 奥浜弘一、福原賞、新里薫 ◆ 第2回 医療安全・医薬品・医療機器職員研修会（3部署合同） 日時：平成24年12月17日（月） 内容：当院の医療安全について 講師： ①医療機器安全管理の基本 ME機器センター 小田正美 ②抗がん剤の取り扱いについて 薬剤部 石井岳夫 ③ノンテクニカルスキル 安全管理対策室 長濱一史 ◆ 第3回 医薬品・医療安全職員研修会（2部署合同） 日時：平成25年3月4日（月） 内容：抗がん剤血管外漏出への対応について 講師： ①抗がん剤の血管外漏出について 薬剤部 鈴木毅 ②血管外漏出のマネジメント 外来化学療法室 里見雄二 ③血管外漏出時のスキンケアについて 褥瘡対策室 平良智恵美 ④皮膚科からの血管外漏出への注意点 皮膚科 平良清人 ◆ 第4回 医療機器・医療安全職員研修会（2部署合同） 日時：平成25年3月26日（火） 内容：電気設備を理解しよう 講師： ①台風時の停電について 集中治療部 瀧上竜也 ②当院の電気設備について 施設運営部 金城福康 | |

| | |
|---|---|
| ④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① インシデントに関する対策事項の提出 ② 分析担当者による安全確認を月1回訪問確認。 ③ 病院管理者による院内巡視を行い、直接的に指導・確認。 ④ リスクマネジャー連絡会議・安全ニュース等で情報の共有を図る。 ⑤ 研修会の実施、少人数でのシミュレーション研修の実施。 | |
| ⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> (2名) ・無 |
| ⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> (3名) ・無 |
| ⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (4) 名 (GRM : 2名 “医師・看護師” 事務担当 : 2名) 兼任 (14) 名 (室長 : 1名) (医師 : 6名、看護師 : 3名、薬剤師 : 1名、臨床工学技士 : 1名、事務職 : 3名) ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① 安全管理対策に係る実施状況調査に関する事。 ② 安全管理対策に係る職員の教育研修及び具体的な指導方法に関する事。 ③ リスクマネジメント・マニュアルの改正に関する事。 ④ 医療事故及びインシデントに係る発生原因の調査・分析並びに関係部署に対する指導・助言に関する事。 ⑤ 医療事故などに係る診療録・看護記録等への記載が正確かつ十分になされているかの確認及び必要な指導に関する事。 ⑥ 医療事故発生時における患者及び家族に対する説明等の対応状況の確認及び指導に関する事。 ⑦ 医療紛争の原因の調査及び分析に関する事。 ⑧ 医療安全管理委員会の資料及び議事録の作成及び保管、その他委員会の庶務に関する事。 ⑨ 患者相談窓口に関する事。 ⑩ その他、医療安全対策の推進及び連絡調整に関する事。 | |
| ⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|--------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況 | 有 |
| ・ 指針の主な内容： ①組織について：院内に感染対策委員会と感染対策室を設置 ②感染対策室について：役割を明記 ③診療部・科長の責務の明記 ④職員報告義務 ⑤病院長の役割 | |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 年 11 回 |
| ・ 活動の主な内容： ①院内決定事項について：結核患者と曝露者への対応や、アウトブレイク発生時などの対応策について決定する。 ②報告事項：耐性菌分離状況、血液培養集積状況、針刺し・切創・粘膜曝露、抗MRSA薬使用状況と届け出率、その他 | |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 年 3 回 |
| ・ 研修の主な内容： 【第1回】内容：「経路別予防策マニュアル」 「新規採用安全装置器材の使い方」 「N95マスク着脱方法」 「新エプロン脱ぎ方」 「抗菌薬適正使用」 「結核について」 期間：平成24年10月2日 参加人数：1,246名 【第2回】内容：「カテーテル関連血流感染」 「CVポート管理」 期間：平成24年12月21日 参加人数：594名 【第3回】内容：「ノロウイルスとは」 「ノロウイルス感染対策」 「アウトブレイク報告」 「重症熱性血小板減少症候群：SFTSについて」 期間：平成25年2月18日 参加人数：899名 | |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況 | |

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)

・ その他の改善のための方策の主な内容 :

①感染対策室専従看護師により、日々の耐性菌分離状況の確認と病棟への報告・対策確認の実施

②細菌検査技師により、毎週1回ICTミーティングにて耐性菌分離状況確認と対策の確認

③感染対策委員会、感染対策実務者会議での報告

④感染対策リンクナース委員会にて部署毎の感染率と手指消毒実施状況のサーベイランスの実施

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|---|
| ① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年2回 |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <p>第1回 医薬品安全職員研修会：H24年12月17日（3部署合同） 内容：「当院の医療安全の基本」 (1) ノンテクニカルスキルについて/ 安全管理対策室 GM (2) 抗がん剤の取り扱いに対する安全対策/ 薬剤師 (3) 医療機器安全管理の基本/ ME 機器センター</p> <p>第2回 医薬品安全職員研修会：H25年3月4日（2部署合同） 内容：「抗がん剤の血管外漏出への対応」 (1) 抗がん剤の血管外漏出について/ 薬剤師 (2) 血管外漏出のマネジメント/ 看護師 (3) 抗がん剤の血管外漏出への対応/ 看護師</p> | |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | |
| <p>・ 手順書の作成 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容： 手順書を作成し院内各部署に配置，また必要があれば改定し改定箇所を差し替えている。実施状況は各部署責任者が手順書に基づいて業務が行われているかをチェックし，また病棟担当薬剤師が定期的に巡回，さらに年2回程度は手順書に基づく業務が実施されているかを，チェックリストを用いて確認している。</p> | |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>薬品情報担当薬剤師が，製薬会社MR，医薬品医療機器情報ホームページ，電子カルテ上のJUS-DIより入手し，評価・周知している。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>1) バンコマイシン静注に関するインシデント 平成24年9月14日にバンコマイシンdiv指示に対し，スローivで投与したインシデントが発生した。本事例に対して，以下の対応を実施した。 ①ワンショット静注出来ない代表的な薬剤の一覧表を作成し病棟に配布した。 ②電子カルテでのバンコマイシンオーダー時「静注不可，1時間以上かけて点滴静注」と表示。 ③本事例に関する病棟・安全対策室主催のRCAに薬剤師1名が参加した。</p> <p>2) グリセリン浣腸剤の採用変更について 平成24年度第2回医薬品安全管理委員会で，グリセリン浣腸剤のストッパーの直腸遺残に関する安全情報（PMDA医療安全情報 No. 34，2010年10月）への対策として，採用品の変更を含めた根本的な対策が必要との認識で一致した。この結果を受けて，薬剤部でグリセリン浣腸代替剤の検討・採用願の提出を行い，平成25年4月2日開催の第191回薬事委員会で採用が決定された。現在，全規格が採用剤に切り替った。</p> <p>3) 酢酸剤への対応 今年4月7日に神奈川県下の大学附属病院で，栄養チューブの詰まりを取る為に誤って高濃度酢酸（約25%）を使用し小腸壊死で50代の患者が死亡した医療事故が発生した。本事例に対しては，当院では既に薬剤部で栄養チューブ用0.3%酢酸300mLを調製・供給しており，低濃度のため当該事故は起こり得ないと思われた。しかし，耳鼻科・婦人科用に3%酢酸500mLも調製・供給しており，栄</p> | |

養チューブ用酢酸と誤認するリスクが懸念された。さらに耳鼻科外来でのインシデント対策と、上記診療科の意見も取り入れて、3%酢酸500mLを3%酢酸10mLに用量を変更し調製・供給することとした。

4) 抗がん剤漏出対応キットの作成

抗がん剤漏出時に各診療科で迅速に対応が取れるよう、化学療法室協力のもと薬剤部で抗がん剤漏出対応キットを作成した。さらに今後、各診療科等でも利用できるように2セットとして、院内に広く周知して行く予定である。

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|--|
| ① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年38回 |
| ・ 研修の主な内容： 新規導入機器講習会、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、保育器、人工心肺関連装置 輸液・シリンジポンプ・ペースメーカー、モニターなどの原理や取扱い | |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | |
| ・ 計画の策定 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無) ・ 保守点検の主な内容： 輸液シリンジポンプを含め37品目を医療機器安全管理専門員会で決定し、保守点検計画を立て実施している。 | |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品医療安全総合機構 (PMDA)、厚生省通達、各企業、学会などからの情報をME機器センターで収集し、院内採用機器の場合は、ME機器センター新聞、回覧などで各部署に周知徹底を行うとともに、病院長への報告を行っている。医療機器に関連する院内のインシデント内容、不具合情報、院外での起こった医療機器に関連する医療事故を取り上げ、月一回行っている医療機器安全管理専門員会で報告し、必要に応じ職員研修を行っている。 | |

